

史跡高遠城跡二ノ丸便所建築事業

史跡高遠城跡二ノ丸II

埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

1992.3

高遠町教育委員会

史跡高遠城跡二ノ丸便所建築事業

史跡高遠城跡二ノ丸II

埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

1992.3

高遠町教育委員会



発刊にあたって

ピンクの色も鮮やかに、みごとに咲きそろう高遠城址公園のコヒガンザクラは、全国桜100選の一つに挙げられ、いまや観覧期だけでも20数万人の観光客が訪れて、花の町高遠を埋める。

高遠城は古記録によると、信玄の命令を受けて、天文16年（1547）山本助助がこの地に築立てをしたと言われている。それからわずか35年後の天正10年2月下旬には、織田信忠の5万の大軍は伊那谷を北上し、武田の諸城を落して進軍し高遠城を囲んだ。ときの城主、弱冠20余歳の仁科五郎盛信（信玄の五男）は、3000の兵とともに断固として孤城にたてこもって奮戦したが、3月2日多くの城兵とともに花と散った。その壮絶な戦いのさまは、まさに特筆すべき戦国悲史として、この地になまなましく語り伝えられている。

このたび、その城跡の二ノ丸地籍内に公衆便所を新設することになり、史跡の現状変更に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査を実施した。城跡内での発掘調査は、昭和62年の史跡高遠城跡保存管理計画策定時における、二ノ丸門発掘調査に続き2回目にあたる。

作業は平成4年1月10日より同月21日まで、厳寒のなかであった。調査面積は便所建築予定地50㎡（長方形）及び排水管伏設予定地約100㎡（総延長75m）である。

調査の結果、発掘調査地内からは配石址5ヶ所、集石址2ヶ所の遺構と720点余りの遺物が出土した。その中には約15世紀から明治以後のものまであり、ほとんどが陶器や磁器の破片であった。それらについての器種・年代区分などの分類は済ませたが、後日さらに検討が必要と思われる。また、出土した配石址・集石址などは城に関係した遺構と思われるが、発掘調査面積が限られていたため、その性質を位置づけることはできなかった。しかし、それぞれを詳細に記録したので、後日の研究に役立てられれば幸いである。

この調査にあたり、ご指導をいただいた文化庁並びに県教育委員会関係の先生方、出土陶磁器片の鑑定をお願いした、瀬戸市歴史民俗資料館の藤沢良祐先生、発掘調査及び報告書作成の全般にわたって調査員として携っていただきました宮田村の日本考古学協会会員友野良一先生、また、積極的に作業に参加していただきました作業員の皆さん方に、この報告書の発刊にあたり厚くお礼を申し上げます。

平成4年3月

高遠町教育委員会

教育長 山 川 廣

例 言

1. 本報告書は、平成3年度に実施した史跡高遠城跡二ノ丸便所新築事業に伴う、埋蔵文化財緊急発掘調査報告書である。
2. この緊急発掘調査は、史跡高遠城跡二ノ丸便所新築事業に伴い、便所建築部分・汚水管等埋設部分の埋蔵文化財が消滅するため、事前に緊急発掘調査を実施し記録保存を図ることを目的とした。また、同時に史跡高遠城跡の現状変更（便所新築）許可の条件である発掘調査を実施したものである。
3. この緊急発掘調査は、高遠町役場の委託により高遠町教育委員会が実施した。
4. 本報告書は、平成3年度中にまとめることが要求されているため、調査によって検出された遺物をより多く図示、図版化することに重点をおき、資料の再検討は後日の機会に譲ることとした。
5. 出土遺物（陶磁器）の鑑定は、瀬戸市歴史民俗資料館の藤沢良祐先生にお願いした。
6. 本報告書の執筆者及び図版製作者は次のとおりである。
 - 本文執筆者 友野 良一・小松 博康
 - 図版製作者 友野 良一・小松 博康・荒井 美和・保科まゆみ
 - 写真撮影 友野 良一・小松 博康
 - 遺物整理 友野 良一・小松 博康・平沢かほる・荒井 美和・保科まゆみ
7. 本報告書の編集は、主として高遠町教育委員会がおこなった。
8. 遺物及び実測図類は、高遠町教育委員会が保管している。

目 次

口 絵

発刊にあたって

例 言

目 次

挿図目次

表目次

図版目次

第Ⅰ章	発掘調査の経緯	1
第1節	発掘調査に至るまでの経過	1
第2節	調査会の組織	1
第3節	発掘調査の経過	2
第Ⅱ章	遺跡の環境	3
第1節	遺跡の位置	3
第2節	地形・地質及び周辺の遺跡分布	4
第3節	歴史的環境	7
第Ⅲ章	遺構と遺物	11
第1節	調査の概要	11
第2節	遺 構	11
第3節	遺 物	15
まとめ		33
あとがき		34
参考文献		34
写真図版		35

挿 図 目 次

第1図	高遠城跡の位置図	3
第2図	高遠城跡の地形及び周辺の遺跡分布図	4
第3図	高遠城跡発掘調査箇所位置図	5
第4図	高遠城跡地質概界図	6
第5図	高遠城跡建築部分調査実測図	8
第6図	高遠城跡管路部分調査実測図	9
第7図	高遠城跡出土陶磁器接合図	13
第8図	高遠城跡建築部分遺物出土状況図	14
第9図	高遠城跡出土遺物拓本	20
第10図	高遠城跡出土遺物実測図(1)	21
第11図	高遠城跡出土遺物実測図(2)	22
第12図	高遠城跡出土遺物実測図(3)	23
第13図	高遠城跡出土遺物実測図(4)	24

表 目 次

第1表	高遠城跡出土遺物一覧表	25
-----	-------------	----

図 版 目 次

図版1	高遠城跡発掘調査前、調査中の状況	35
図版2	高遠城跡遺物出土状況	36
図版3	高遠城跡発掘調査状況(建築部分、管路第5号配石)	37
図版4	高遠城跡発掘調査状況(管路第2号集石)	38
図版5	高遠城跡出土遺物(1)	39
図版6	高遠城跡出土遺物(2)	40
図版7	高遠城跡出土遺物(3)	41
図版8	高遠城跡出土遺物(4)	42

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査に至るまでの経過

- 平成3年 9月3日 二ノ丸便所建築事業に伴う史跡高遠城跡の現状変更許可申請書を提出する。
- 9月11日 県文化課より埋蔵文化財の現地調査に来町。
- 9月26日 発掘担当者友野良一氏と発掘調査の方法・期間などについて打ち合わせをおこなう。
- 9月27日 文化庁と現状変更の内容、発掘調査の範囲などについて打ち合わせをおこなう。
- 12月5日 文化庁より史跡高遠城跡の現状変更許可があり、便所建築工事着手前に発掘調査の実施などの指示を受ける。
- 12月27日 二ノ丸便所建築事業入札

第2節 調査会の組織

○高遠町教育委員会

教育委員長	北原 作英
委員長代理	橋田 雅
委 員	中畑 節子
“	阪下 哲彦

教 育 長	山川 廣
教育次長	伊藤 敏明
社会教育係長	伊藤 清
係	小松 博康

○発掘担当者・調査員 友野 良一（日本考古学協会会員・東洋陶磁学会会員）

第3節 発掘調査の経過

- 月・日 発掘調査日誌
- 12・ テント設営、資材の搬入をおこなう。
建築場所クイ入れ。
- 1・10 テントにて挨拶の後、発掘担当者友野良一氏より調査方法の説明をおこない、
重機による除雪の後発掘調査を開始する。
調査は全面発掘とし、まず便所建築予定地に全員が入り掘り下げ。陶磁器片などの遺物が多く、西側・東側の二面に分け、掘り下げと平板・レベルによる遺物の取り上げを交互におこないながら調査を進める。建物東側に焼土部分を発見する。遺物の取り上げは4回にわたった。(作業員19名)
- 1・13 10日の作業の続きとして建築部分の掘り下げをおこなう。遺物取り上げ2回、
焼土部分平面・断面測図。同時に管路部分のクイ入れを5m毎におこなう。
午後3時より建築部分と管路部分に分かれてそれぞれ調査を実施する。
(作業員15名)
- 1・14 午前中降雪あり、高遠閣にて遺物の洗浄作業をおこなう。(作業員6名)
午後より発掘調査をおこなう。建築部分については平板による測量・写真撮影・北側、東側の断面測図。管路部分は13日の続きの掘り下げをおこなう。
(作業員14名)
- 1・16 建築部分は本日最終面のレベル測量。管路部分については平板測量・断面、
平面の測図・写真撮影をおこなう。(作業員8名)
- 1・17 午後より発掘調査。管路部分№4～№9まで再度掘り下げ、第3号配石から第
2号集石まで写真撮影。建築部分はサブレンチ2本を設定し、断面の調査をお
こなう。(作業員8名)
- 1・18 管路部分前日の再掘り下げ場所について写真撮影・平面、断面測図をおこなう。
(作業員4名)
午後、県文化課児玉氏が米町今後の指示を仰ぐ。各配石は取り上げ、その下部
について再調査が必要とのこと。
- 1・21 建築部分の配石取り上げ。出土石の上・下レベルの測量、遺物の取り上げ、最
終面の平板・レベル測量をおこなう。午後より管路配石の取り上げ調査をおこな
うが、第2号集石は2段目まで平面・断面を測量、1段目より約90cm下まで配石
が続き、100余ケの石を取り上げる。
午後5時、本日をもって発掘調査を終了する旨挨拶をし、解散する。
(作業員12名)
- 1・29 瀬戸市歴史民俗資料館の藤沢良祐氏に陶磁器の鑑定を依頼。
- 2～3月 出土品整理・報告書の執筆、編集作業。

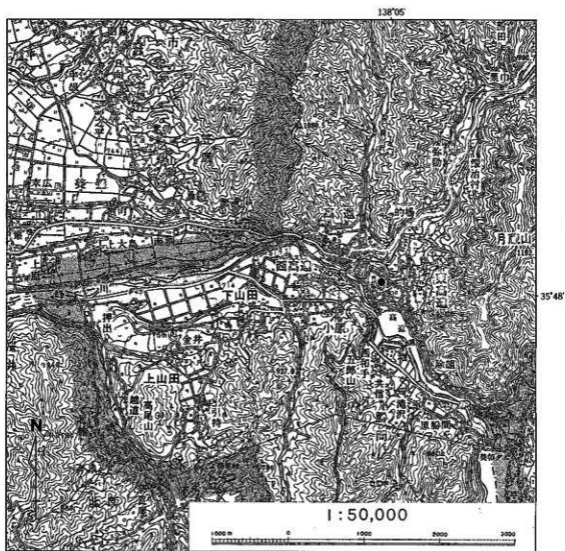
第 II 章 遺跡の環境

第 1 節 遺跡の位置

高遠城跡の地理的位置は、東経 138 度 3 分 55 秒、北緯 35 度 49 分に位置している。今回の発掘調査地である、長野県上伊那郡高遠町大字東高遠 2286 番地他に所在する高遠城跡に至るには、JR 飯田線伊那市駅から主要地方道伊那高遠線により東方へ 9 km の地点にあたる。

また、中央東線茅野駅から杖突街道（国道 256 号線）にて高遠に至ることもできる。

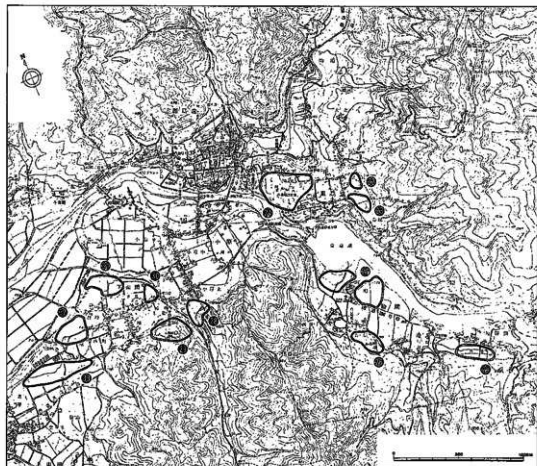
高遠城跡付近は、赤石山脈仙丈岳に源を発する三峯川と、伊那山脈杖突峠に源を発する藤沢川の合流地点東側の三角台地に位置し、標高は 805 m 内外の範囲にある。



第 1 図 高遠城跡の位置図

第2節 地形・地質及び周辺の遺跡分布

1) 地形及び周辺の遺跡分布



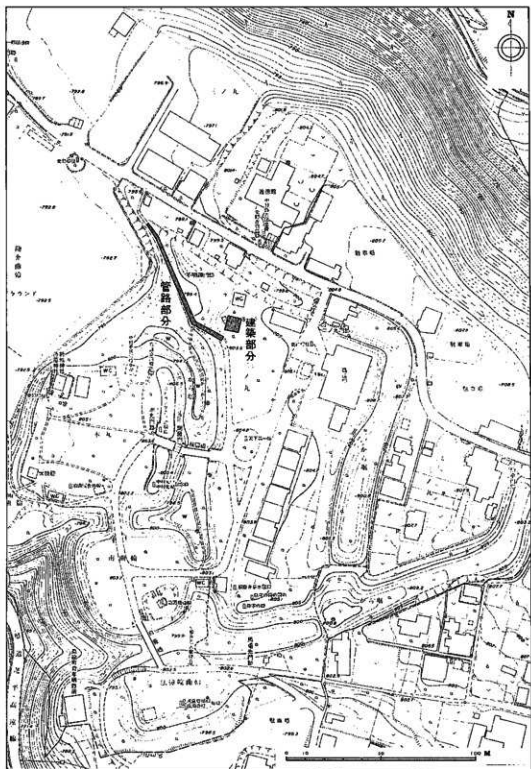
遺跡名	①桂泉寺	②花畑	③高遠城跡	④原勝間
	⑤西勝間	⑥堀	⑦後沢	⑧古城
	⑨上垣外	⑩北垣外	⑪竹垣外	⑫八幡原

第2図 高遠城跡の地形及び周辺の遺跡分布図

高遠町は中央構造線に沿う細長い縦谷で、兩部を西流する三峯川に、藤沢川、山室川などの支流が合流して、河南地区の白山と鉢持棧道の部分で伊那山脈に横谷をうかがっている。また、西日本の内帯と外帯の接触するところであって、圧砕帯も細長く続き、伊那山脈の地塊が赤石山脈に向かって突きあげ断層したと見られ、谷の西側、つまり伊那山脈の側は、赤石山脈の側にくらべると急傾斜となっている。

高遠城跡の堆積層は、三峯川河床から70mほど高いところにあり、長谷村中尾の段丘に連絡している。また、西高遠については河床から20~30mの高さに位置している。

高遠城跡のある月藏山西側山麓の斜面一帯には、城跡も含めて桂泉寺・花畑といった縄文時代の埋蔵文化財も多く、近世に至るまで広い範囲の重要な歴史の礎をにぎっている一帯である。

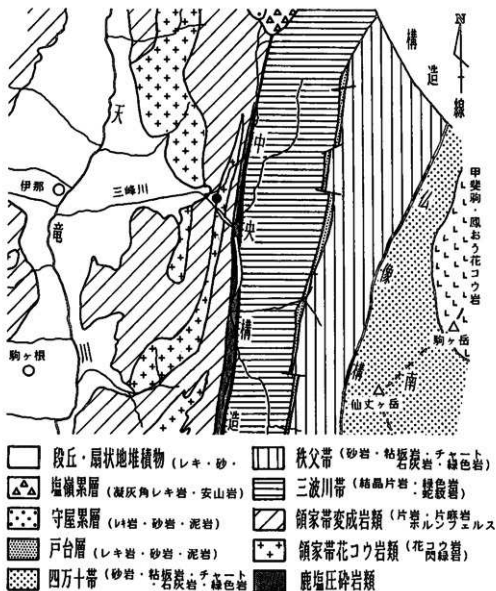


第3圖 高遠城跡發掘調查箇所位置圖

2) 地質

高遠町の地質は、高遠城跡の東にそびえる月蔵山の北東を、中央構造線が藤沢の谷に沿って北上することから、三波川帯・領家帯など複雑な構造をもっており、岩層の変化も激しい。河南地区は領家帯に属し、花崗岩系統のものが大部分を占め、三義地区は三波川帯で、結晶片岩、蛇紋岩等が分布している。高遠城跡はこれらの地質帯のうちにある。

高遠ダムの高遠城跡側に露出している大きな岩が、黒雲母花崗岩である。この黒雲母花崗岩が広くこの辺一帯の底盤となり、この岩盤の上部に伊那礫層と呼ばれる層が堆積し、更にその上にテフラが堆積した地層である。高遠城もこの上に構築されたのである。



第4図 高遠城跡地質概界図

第3節 歴史的環境

高遠には平安時代の末頃から、この付近を支配する領主の居城があったと言われている。また、周辺の伊那市美鷲笠原の蟻塚城や、高遠長藤薬場の城山なども中世の城址と考えられているが、その城主など判然としていない部分が多い。

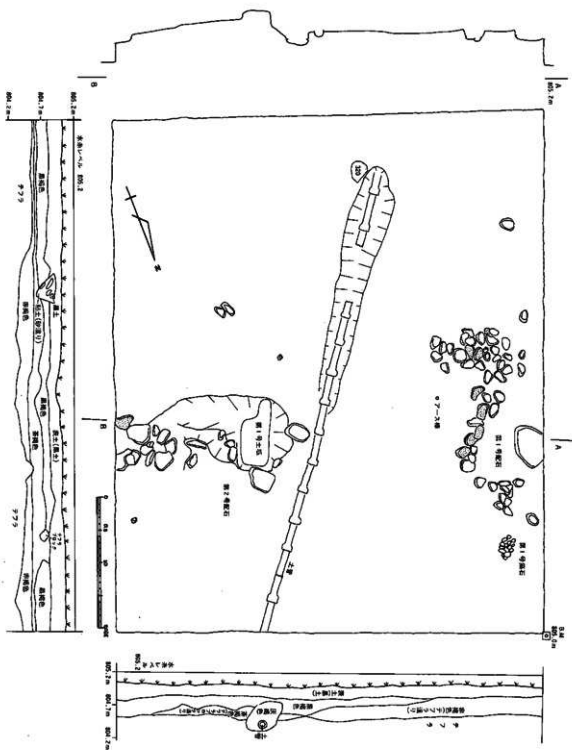
江戸時代に古銭を発掘した東高遠浅間矢場にも、豪族の居館があったと伝えられているし、同じく殿坂に根小屋の地名が残っているので、この辺に領主の居館があり段丘の上に砦があったのではないかという説もある。南北朝の時代から、高遠氏が七代にわたって高遠の領主であったが、その居城もはっきりしていない。

高遠城を現在の位置に築城した確實の史料と言われているのは、武田信玄側近の臣、高白斎が記した「高白斎記」である。これには天文16年(1547年)3月のところに『高遠山の城歎立』とある。これは信玄が全くの処女地に築城したのか、あるいは信玄に滅ぼされた高遠氏居城の地を拡張改修したのか明らかではないが、当時築城技術に勝っていた山本勘助の縄張りによっておこなわれたと伝えられ、本丸西側の一面には「勘助郭」の名が今も残っている。これらのことから高遠城は、信玄が築城したと思われる。

築城以来武田氏(35年間)、保科氏(53年間)、鳥居氏(53年間)、幕領(2年間)、内藤氏(182年間)と、約350年にわたり兩信濃地方の中心として栄えた城である。

高遠城の歴史を見ると、天正10年(1582年)城主仁科五郎盛信の時、織田軍の攻撃を受け落城の悲運をみたこと、鳥居氏の頃と思われるが、大手の位置を東から西に移したこと、内藤氏の頃地震のため城内の破損を修復したことなどがあげられる。

その後明治5年廃藩となり城は解体され、城内の建造物、樹木、城地の一部が払い下げられ、明治8年には有志がここを借り受けて公園とした。城郭址は当時の縄張りの様相を留めており、昭和48年5月26日国の史跡としての指定を受けた。また、史跡内には明治8年頃から植え始めたコヒガンザクラがあり、今の老木はその時に植えられたもので、4月には1500本余りが愛らしいピンクの花を開き、人々の目を楽しませている。昭和35年にはこのコヒガンザクラ樹林が、県の天然記念物に指定されており、シーズン中に訪れる観光客は約25万人に達し、年間約35万人を数え、交通網の整備などが手伝って年々県外からの観光客の増加が目立っている。



第 5 图 高庄城址部分遗迹平面图



第 III 章 遺構と遺物

第 1 節 調査の概要

今回行なわれた調査は、高遠城跡二ノ丸地籍内に建設が予定されている便所の、敷地並びに排水管路に係る埋蔵文化財の緊急発掘調査である。調査箇所的位置は、二ノ丸西側、高遠町大字東高遠2286番地の地籍内である。調査の面積は、便所建築予定地50㎡と排水管路伏設予定地面積約100㎡を対象として行なわれた。

建設が予定されている場所は、二ノ丸内では西北の隅に当たる位置にあり、高遠城の江戸時代の絵図で見る限りでは、重要建造物などは見受けられない場所である。

調査は、平成4年1月10日より同月21日まで実施した。調査の手順としては、調査面積も狭いことから、全面を表土より一定の深さを保ちながら順次掘り下げ、記録する方法をとった。建築部分の出土遺物は、地表下5cmあたりから検出され出し、調査が進むにつれ15cm～30cmの層位に遺物は集中して検出された。出土遺物では、内耳鍋の破片と和釘・陶磁器片・寛永通寶などが混在して出土した。

地表下40cm前後の層位では、遺物もだんだん少なくなっていった。地表下60cm程掘り下げると、古い便所の排水用の土管が埋設されているのが発見された。この排水土管の発見された面は、土層上ではソフトロームと言われる層位であって、この層以下は人工的な行為がなされていない面である。このソフトローム面上に、第1・2号配石遺構と第1号土壇並びに第1号集石が発見される。

管路部分の調査は、建築部分南側より西側の一段低い位置にかけてで、調査範囲は長さ73m、巾平均1m内外、深さ20cm～50cmと断面の高低差があった。出土した主な遺構は、第3・4・5号配石と第2号集石遺構を検出した。以上が調査の概要である。

第 2 節 遺 構

1) 第1号配石 (第5図・図版3)

本址は、調査区域では西壁中央辺りに添って発見された遺構である。その規模は、南北3.0m、東西1.7mの範囲にわたって不整の形で発見された。この配石に使用されている石の大きさは、径10cm～24cm大の自然石52個を使っている配石址である。その配石の中にひときわ目立って径60cm、厚さ8cm～11cmの平盤石が混じていたことから、あるいは、この石が建物の基礎に使われたのではないかと言う意見もあったが、調査面積が狭いうえ他に見られないことから、この石に対しての結論は得られなかった。

2) 第2号配石 (第5図・図版3)

本址は、調査区域内にあっては東側の壁に接するところから、西側第1号土壇の位置までの範囲に広がり、東西3.0m、南北70cm～80cmを測る帯状の配石址である。配石内には、径20cm～40cm大の平らな自然石18個が配されていた。この配石も付近の状況から、後世のかく乱を受

けているように見受けられた。

3) 第1号土壇 (第5図・図版3)

本址は、調査区域としては中央やや東よりに発見された遺構である。規模は、東西45cm、南北1.0m、深さは45cm不整形をなした土壇である。

4) 第3号配石 (第6図)

本址は、実測図に示してあるNo4地点に発見された配石遺構である。この遺構の発見も排水管路と言う特別に狭い部分に限られており、管路を横断しているため、遺構の確認も意外に困難であった。検出された遺構の規模は、東西1.0m、南北1.0m、検出された遺構の深さは地表下25cm、ソフトローム面に位置していた。配石の大きさは、径15cm～48cmの自然石で6個確認された。

5) 第4号配石 (第6図)

本址は、実測図に示してあるNo5の地点に発見された配石址である。規模は、東西95cm、南北60cmの範囲で検出された配石遺構である。石の大きさは、10cm～25cm大の自然石で、石の数は18個確認することができた。しかし、小範囲であるためその性質を知ることができなかった。

6) 第5号配石 (第6図・図版3)

本址は、管路測量地点No6に検出された配石址である。規模は、東西1.0m、南北1.2mを測る。配石の大きさは、8cm～40cmの自然石が29個確認された。

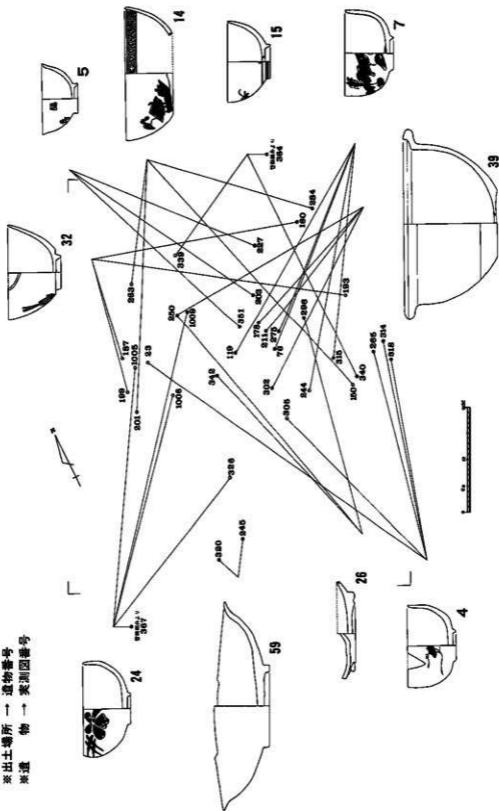
7) 第1号集石 (第5図・図版3)

本址は、第1号配石址の北側に検出された集石で、規模は、東西25cm、南北40cmを測る。集石は、大きさ6cm～12cmの自然石で、その数は14個を数えた。この遺構の設けられたのは、第1号配石の時期頃ではなかろうか。

8) 第2号集石 (第6図・図版4)

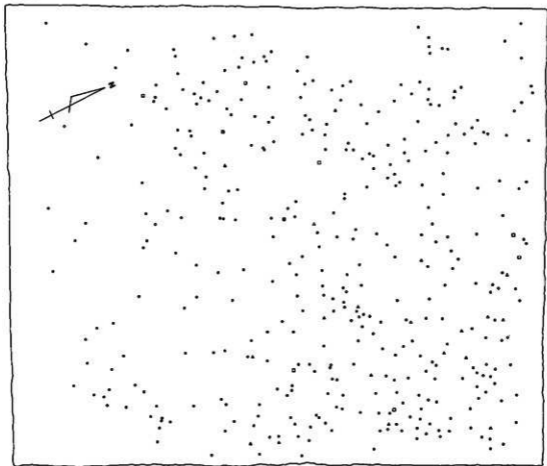
本址は、管路のNo7～No8号地点に確認された集石遺構である。規模は、東西80cm、南北1.5mを測る。この集石は、径10cm～30cm内外の自然石を4～5段に積み上げた状態で検出され、深さ1.0mで、調査範囲内では115個取り上げた。これら集石の形状から、暗渠排水的な施設と言う意見もあったが、発見された集石が、調査範囲を南北に横断した狭い、限られた部分であることから、この集石の性格を確認することはできなかった。

※出土場所 → 遺物番号
※遺物 → 美國図番号

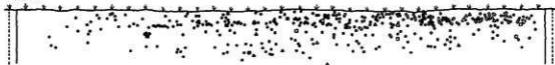


第7図 滝道城跡出土陶器群接合図

平面



断面



- 凡 例
- 土器・陶磁器片
 - ▲ 金属（釘他）
 - 貨幣
 - 石製品
 - △ 骨

第 8 圖 高遠城跡建築部分遺物出土狀況圖

第3節 遺物

1) 丸碗 (第10図・図版8)

下方は丸味を帯びるが、上方はほぼ直立し、法量は器高5.3cm、口径8.5cm、高台4mm前後、削り出し輪高台。染め付けの磁器。産地は瀬戸。時期は明治以降。

2) 丸碗 (第10図)

下方から胴部にかけて丸味を帯び、上方は内側に反るようであるが、口縁部を欠いているので法量は不明である。染め付けの磁器。産地は瀬戸・美濃。時期は明治頃。

3) 丸碗 (第10図)

下方から胴部は丸味を帯びる。法量は、口縁部を欠いているので不明である。呉須絵の染め付けの磁器。産地は瀬戸・美濃と思われる。時期は明治。

4) 丸碗 (第10図・図版7)

下方から胴の部分にかけて丸味を帯びているが、口縁近くはほぼ直立する。法量は器高5.3cm、口径8.8cmを測る。呉須を使った染め付けの磁器。産地は瀬戸・美濃と考えられる。時期は明治。

5) 杯 (第10図)

下方から胴部にかけて丸く、口縁部は外に反る。法量は器高約4cm、口径7.6cm、器面に「壽福」の文字が書かれた長石軸を施した杯である。産地は美濃か。時期は明治。

6) 丸碗 (第10図)

下方から胴部にかけて丸味をもつ器形である。口縁部を欠いているので法量は不明。呉須で書かれた染め付け磁器の碗である。産地は瀬戸・美濃か。時期は明治と考えられる。

7) 丸碗 (第10図・図版7)

下方は丸味を帯びるが、上方はほぼ直立する。法量は器高5.3cm、口径9cm、高台径は3.5cm、削り出し高台である。染め付けの磁器。産地は瀬戸・美濃と考えられる。時代は明治頃。

8) 杯 (第10図)

下方は丸味を帯び、胴部以上は外反りしながら立ち上がる。口唇は外に反っている。器高は3.3cm、口径は6.2cmを測る。器面は文字が書かれた染め付けの磁器杯である。産地は瀬戸。時代は大正以降。

9) 丸碗 (第10図)

下方は丸味をもって立ち上がるが、胴部以上を欠いているので計測はできない。染め付けの丸碗である。産地は瀬戸か。時期は明治頃。

10) 丸碗 (第10図・図版7)

下方は丸く胴部以上はほぼ直立し、口縁部が僅か外反りする。法量は器高が5.1cm、口径8.9cmを測る。染め付けの丸碗で、産地は瀬戸・美濃と思われる。時期は明治以降と考えられる。

11) 丸碗 (第10図)

下方から胴部にかけて丸味をなしているが、胴部より上はほぼ直立して立ち上がる。法量は器

高5 cm、口径7.6 cmを測る。器面には花が描かれ、葉は人工コバルト、花は赤い色を配す磁器の碗である。産地は瀬戸・美濃と考えられる。時期は大正以降。

12) 丸碗 (第10図・図版8)

下方部は丸く胴部以上はやや外に反る器形で、口唇は外反りしている器形であり、法量は器高4.9 cm、口径8.5 cmを測る。器面は菊花紋が描かれ、その周辺を点線による唐草紋が施された染め付け磁器の碗である。産地は瀬戸・美濃。時期は大正。

13) 丸碗 (第10図・図版7)

下方は丸味を帯びているが、胴部からはほぼ直立した形で立ち上がる。法量は器高5.6 cm、口径8.2 cmを測る。染め付けの磁器の碗である。産地は瀬戸・美濃。時期は明治以降。

14) 碗 (第10図・図版7)

丸碗。口径14.1 cmは計測し得たが、底部を欠いているので器高は不明。口縁内に巾1 cm程の型押し染め付け紋と、外側に風物の絵紋を施した染め付けの磁器碗である。

15) 丸碗 (第11図・図版7)

下方部より總体的に丸味をもった形の丸碗である。法量は器高4.7 cm、口径8.6 cmを測る。染め付けの磁器。産地は瀬戸・美濃と考えられる。時代は明治以降。

16) 筒茶碗 (第11図・図版7)

筒形茶碗で、底部より口縁部に向かって外反するように立ち上がり、口縁部は波状となっている。法量は器高が6.8 cm、口径8.8 cmを測る。器の内外面に染め付けの絵模様を施された磁器である。時代は明治以降。産地は瀬戸・美濃と考えられる。

17) 丸碗 (第11図・図版2,5)

下方部は丸味を帯び、上方はほぼ直に立ち上がる器形。法量は器高6.1 cm、口径約8.3 cmを測る。器面には、草花の染め付け紋様が施された磁器である。産地は瀬戸・美濃。時期は明治以降と考えられる。

18) 徳利 (第11図)

下方部の破片であるため全体の器形を知ることが出来ない。底部が外部に張り出している形態。釉は長石釉が全面に施された徳利と考えられる。産地は瀬戸・美濃。時期は明治以降。

19) 丸碗 (第11図・図版5)

下方は丸味を帯び、上方はほぼ直に立ち上がる磁器の丸碗である。法量は器高5.9 cm、口径が6.4 cmを測る。器面には、竹林を模した染め付けが施されている。産地は瀬戸・美濃。時代は明治以降。

20) 蓋 (第11図)

器面に粒々の釉が施され、更にその上に白と青色の隆起した花模様を施された磁器の蓋である。産地は瀬戸・美濃。時期は大正以降の新しいもの。

21) 丸碗 (第11図・図版2,8)

下方部から胴部までが丸味をもち、口縁部に至って直に立ち上がりなす。口唇が僅か内反りする形状の磁器で、法量は器高4.5 cm、口径10.5 cmを測る。器面は、樹木の染め付けが施さ

れている。産地は瀬戸・美濃と考えられる。時期は明治以降。

22) 小 皿 (第11図)

体部は緩やかに丸味を帯びている。高台は先端がやや尖った形の付高台である。法量は器高が2.3cm、口径約9cmを測る。器の内外に染め付けによる絵模様が施されている。産地は瀬戸・美濃。時代は明治以降。

23) 小 皿 (第11図)

磁器皿の口縁部の破片である。底部を欠いているので器高は不明。口径は約10cm程である。口縁部はやや内に反り、口唇は尖っている。器内外には染め付けによる紋様が施されている。産地は瀬戸・美濃。時期は明治以降。

24) 丸 碗 (第11図・図版2,7)

下部は丸味をなし、胴部より口縁部は内反りしている丸碗である。器高は5.2cm、口径は約9.8cmを測る。高台は削り出し高台。軸薬は灰軸が施されている陶器。器面には鉄軸絵と花紋様が施された丸碗。産地は瀬戸・美濃。時期は明治以降。

25) 小 皿 (第11図)

体部は緩やかに丸味を帯びている。高台は低めの付高台である。器の内外面とも型押しによる染め付けの磁器皿。産地は瀬戸・美濃。時期は明治以降。

26) 鍋 (第12図・図版6)

三脚の付いた陶器鍋。底部は無軸でロクロ痕が認められる。内側は鉄軸が施された底部の破片。産地は瀬戸・美濃と思われる。時期は江戸後期と考えられる。

27) 灯明皿 (第12図・図版2,8)

底部は無軸のロクロ痕が残り、黒煙の付着が認められる灯明皿である。法量は器高2.2cm、口径10.6cmを測る。内面は灰軸が全面に施されている。産地は瀬戸・美濃。時代は江戸時代後期の陶器である。

28) 小 皿 (第12図・図版6)

下部は丸味を帯び、胴部上は外反りする形の皿である。法量は器高2.2cm、口径は約10cm程と考えられるもの。高台は先の尖った削り出し高台。器内外面に染め付けによる紋様が施されている。産地は瀬戸・美濃。時期は江戸時代。

29) 碗 (第12図・図版5)

下部はやや丸味を帯びながら立ち上がっている。法量は器高5.2cm、口径約9.6cm。体部上方にロクロの回転を利用した指撫による痕がうかがえる。高台は削り出し高台である。底部を除き灰軸が施されている。産地は瀬戸・美濃。時期は江戸時代の陶器。

30) 香 炉 (第12図)

香炉の口縁部。口唇はやや内側に傾いている。口径は10cmを測る。軸は内面を除き黄瀬戸軸が施されている。産地は瀬戸・美濃。時期は明治以降の陶器と考えられる。

31) 筒形碗 (第12図)

灰軸陶器碗底部の破片。法量は底部径6.8cm、高台は削り出し高台で、高台の高さは7mmと

高い方である。底部にロクロ痕が見られ、無軸である。産地は瀬戸・美濃。時期は江戸時代。

32) 丸碗 (第12図・図版2,5)

下方部よりやや急な立ち上がりをした碗である。法量は器高5.8cm、口径10.2cm。高台は削り出し高台である。器面には鉄軸による絵が描かれ、高台を除き灰軸が施された陶器である。産地は瀬戸・美濃。時期は江戸時代。

33) 皿 (第12図・図版8)

器高は2.8cm、口径13.7cm、高台径6.7cm前後。体部はやや丸味を帯び、開くように立ち上る。器面は鉄軸を混じえた染め付けの削り取りが施された磁器の皿である。産地は瀬戸・美濃。時期は明治以降となろう。

34) 徳利 (第12図・図版8)

底部を欠いているので器高は測ることが出来ないが、胴径は8.5cmを測る。胴部上は内傾して立ち上がる。全面に黄瀬戸軸が施されている陶器で、産地は瀬戸・美濃。時期は明治以降。

35) 小皿 (第12図・図版2,6)

下方より丸味を帯びて立ち上がり、口縁部は10弁の菊花紋様となっている皿である。器内には染め付けの絵が描かれている磁器。法量は器高2.8cm、口径9.8cmを測る。産地は瀬戸・美濃。時期は明治以降。

36) 筒形陶器 (第12図・図版8)

器高10.5cm、口径9.1cm、底部径7.3cm、上げ底の筒形陶器である。軸葉は底部を除き全面に鉄軸が施されている。産地不明。時期は明治以降。

37) 鉢 (第12図)

底部は削り込み無軸。下方より丸味をなして立ち上がっているが、口縁部を欠いている鉢形陶器である。表面には白軸が施されているが、内面は無軸。産地は瀬戸・美濃。時期は明治以降でも新しい方。

38) 鉢 (第12図・図版6)

底部の破片で、しっかりした計測は出来ないが、底は削り出し高台である。器面内外には染め付けと赤絵が施された磁器の鉢と考えられる。産地は瀬戸と思われる。時期は明治以降。

39) 鍋 (第12図)

器高10cm、口径20.3cm、底部の径7.3cmを測る。下方は丸味を帯び、上方の口縁が大きく外反りする。下方から底部にかけロクロ削りの調整が行われている。軸葉は底部を除き内外とも鉄軸が施されている。産地は瀬戸・美濃。時期は江戸後期。

40) 瓶 (第12図)

底部の破片。底部径は13.5cmを測る。厚さは1.3cmとかなり厚い底である。軸葉はやや青味がかった長石軸が底の部分を除いて厚めに施されている。在地産の陶器と思われる。時期は明治以降。

41) 鉢 (第12図・図版5)

一部口縁部を欠いている陶器の鉢。下方よりやや内傾して立ち上がり、口縁部は内反してい

心。体高は器高7.2cm、口径14.3cmを測る。底部は平らである。釉薬は青味がかった長石釉が施されている。産地は在地産と思われる、時期は明治以降。

42) 徳利 (第12図・図版8)

下方よりの立ち上がりは胴部まではやや外反りしているが、胴部より上を欠いているのでそれ以上の器形は不明である。底部の径は10cmを測る。釉薬は長石釉が全面に施されている。一部に鉄軸で書かれた酒の字が認められる陶器であり、産地は在地かとも思われる。時期は大正時代あたり。

43) 皿 (第12図)

器高3.3cm、口径約23cm内外と思われる。高台は5mmの削り出し高台である。下方からの立ち上がりはやや丸味を帯びているが、口縁部は外反りしている。染め付けの磁器の皿である。産地は瀬戸・美濃。時代は明治以降。

44) 皿 (第12図)

器高1.9cm、口径22.5cmを測る。下方よりの立ち上がりは二段で、口唇は丸く収まる。口縁部内にはエ字の型押しと山形紋の紋様が施された磁器の皿である。産地は瀬戸・美濃。時期は昭和に入ると考えられる。

45) コモデ石 (第13図)

長さ14.5cm、巾3.6cm、自然石を用いたコモデ石。ところどころに手ずれの痕が見られる。

46) 鉄製品 (第13図)

器形はよく分らないが、鉄製品の一部。江戸時代のものと考えられる。

47) 帯金具 (第13図)

径3.3cm～3.5cmの帯金具の止金具。江戸時代と推測される。

48) 止金具 (第13図)

馬具装具の止金具と考えられるもの。時代は江戸時代頃。

49) ～54) 角釘 (第13図)

49、50、51、52、53、54は角釘である。49には、一部木片が付着している。時期は江戸時代と考えられる。

55) 小皿 (第13図・図版5)

器高2.5cm、口径10.2cm、高台は削り出し高台で先端は尖っている。底部に重ね焼きのトチの痕が残る。器面にロクロ痕がうかがわれる。全面に濃い灰釉が施される皿。生産地は瀬戸・美濃。時期は大窩期である。

56) 皿 (第13図)

一般に言う土師質の土器。器高2.2cm、口径は9cm内外、底部は糸切痕をのこしている土器。江戸時代の祭器ではないかと思われる。産地不明。

57)・58) 内耳鍋 (第13図・図版2)

内耳鍋の耳の部分。時期は戦国～江戸初期の頃と考えられる。

59) 浅鉢 (口絵・第13図・図版2)

下方よりの立ち上がりは外方に開き、緩い曲線を描きながら口縁部に至る。口縁部は先端が丸味をもって外反りしている。器高は6cm、口径は21.7cm、底部径は8.6cmを測る。この鉢は、口縁部に指で片口状に押しつけた痕が等間隔に五個ある。中程で灰釉と鉄釉の色分けがしてある陶器。産地は瀬戸・美濃。時期は江戸時代。

60) 火入れ (図版5)

火入れの破片。釉は緑色で印花紋が施されている陶器。瀬戸の勇右衛門窯に類例を見る。時期は19世紀。

64) 器種不明 (図版5)

底部の破片で、ロクロ痕が認められる。内面はサビ釉が施されているもので、産地は瀬戸・美濃。時期は大高期と思われる。

65) 碗 (図版6)

碗の胴部破片。釉薬は灰釉の淡緑色で光沢がある。産地は不明。時期は明治以降。

66) 丸碗 (図版6)

広東茶碗の底部破片である。高台の立ち上がりが高い。呉須絵の陶器。産地は瀬戸・美濃。江戸末頃。

67) 皿 (図版6)

底部の破片。削り出し高台。内側には呉須による花模様を描かれた施釉陶器である。産地は瀬戸・美濃。江戸時代。

68) 茶碗 (図版6)

口縁部と胴部の茶碗の破片。内外に呉須絵の陶器。産地は瀬戸・美濃。時代は江戸時代。

69) 天目茶碗 (図版6)

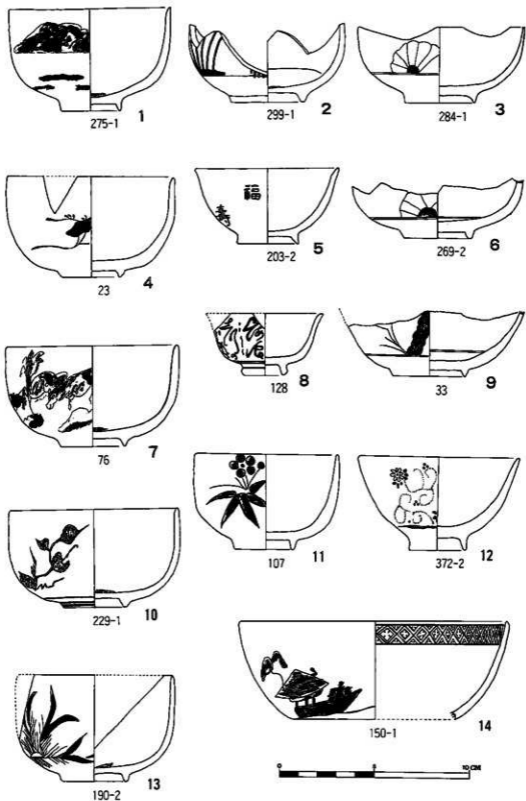
天目茶碗の口縁部破片。口縁の立ち上がりが直で、口唇で僅か外反ぎみ。産地は瀬戸・美濃。時期は江戸時代頃。

第9図 高遠城跡出土遺物拓本

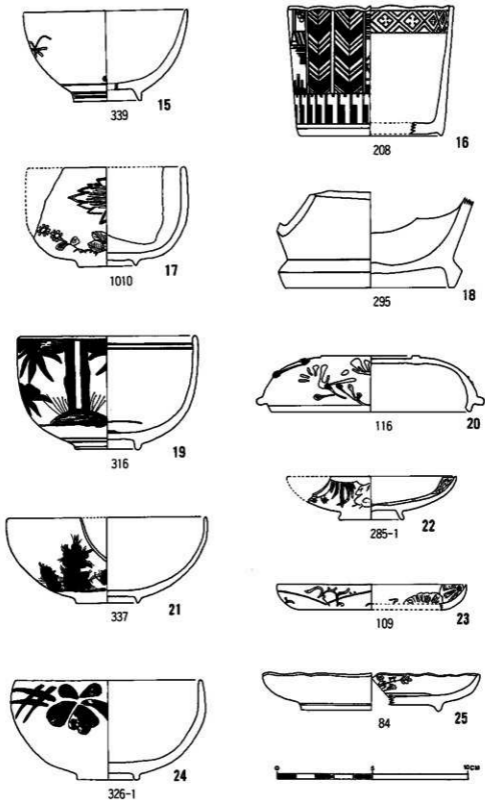


寛永通寶 1. 寛文八年頃の寛永通寶 2. 背文のある寛永通寶 3. 小型の寛永通寶 4. 江戸浅草銭といわれている寛永通寶。

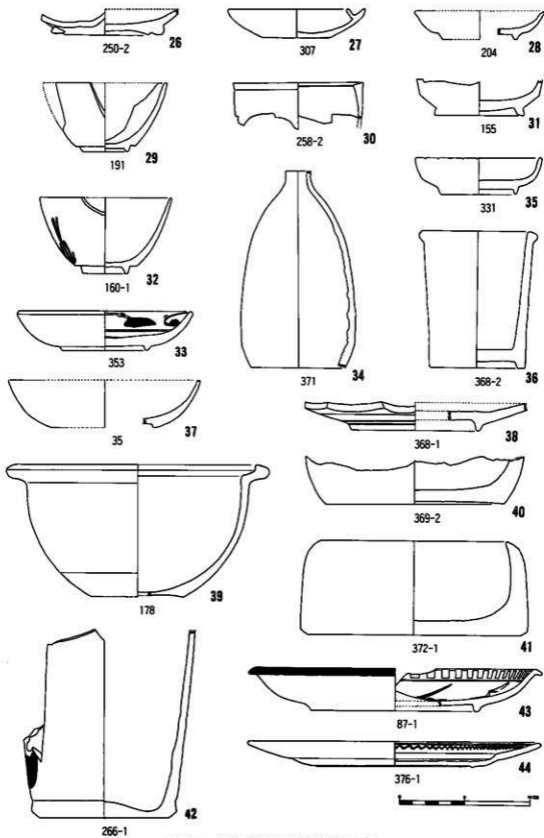




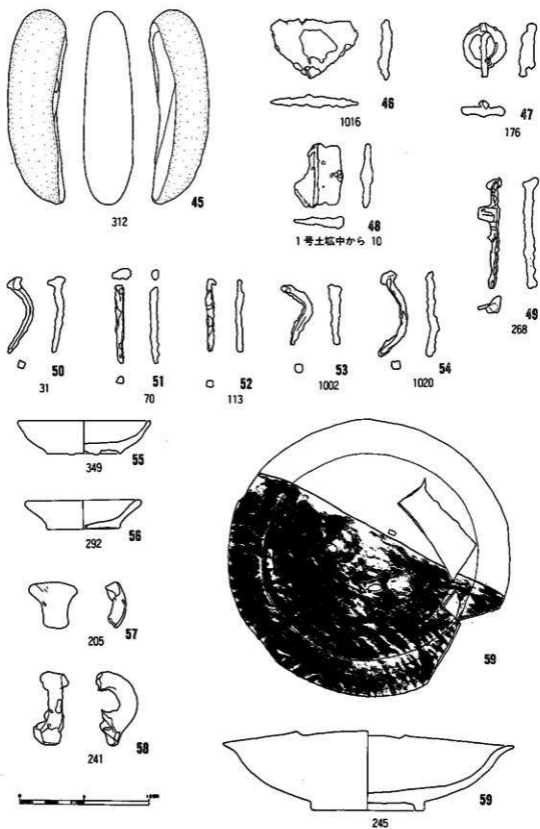
第10圖 高遠城跡出土遺物実測圖(1)



第11图 高城城跡出土遺物実測図(2)



第12图 高源城跡出土遺物実測圖(3)



第13図 高遠城跡出土遺物実測図(4)

第1表 高遠城跡出土遺物一覽表

遺物番号	細番号	出土場所	所在地	器種	時代	材質・その他	実測図番号	遺物番号	細番号	出土場所	所在地	器種	時代	材質・その他	実測図番号
1		建		貨幣	江	寛永通寶		42	1	建	瀬-美	磁 皿	明以降	染	
2		"	瀬-美	磁 丸碗	明以降	染		2	"	"	"	不明	"	"	
3		"	"	陶	"	"		43	"	在地	土 碗	"	"	"	
4		"	"	磁	"	"		44	"	瀬-美	磁 丸碗	"	"	染	
5		"	"	鉄 釘	"	"		45	1	在地	土 不明	"	"	"	
6		"	瀬-美	磁 丸碗	明以降	染		2	"	瀬-美	陶	"	"	灰	
7		"	"	"	"	"		3	"	不明	鉢	"	"	鉄	
8		"	"	徳利	"	外鉄+内灰+染		46	1	瀬-美	"	不明	"	"	
9		"	"	鉄 釘	"	"		2	"	"	"	"	江	灰+呉須絵	
10		"	瀬-美	磁 丸碗	明以降	染		3	"	"	磁	"	明以降	染	
11	1	"	"	"	"	"		47	"	"	"	丸碗	"	"	
2	"	"	"	陶 蓋	大以降	鉄		48	"	"	"	"	大以降	"	
12	1	在地	土	不明	明以降	"		49	1	在地	土 碗	"	明以降	"	
2	"	不明	陶	"	"	施		2	"	瀬-美	磁 丸碗	"	大以降	"	
3	"	"	"	"	"	"		50	"	"	陶 摺鉢	"	明以降	鉄	
13	"	"	"	瓦	"	"		51	"	在地	土 瓶	"	"	"	
14	"	"	瀬-美	磁 丸碗	大以降	"		52	"	瀬-美	陶 天目茶碗	"	江	"	69
15	"	"	"	陶	"	"		53	1	"	"	碗	明以降	鉄	
16	"	在地	土	瓶	明以降	"		2	"	"	"	不明	"	灰	
17	"	瀬-美	磁 丸碗	"	"	染		54	"	"	"	摺鉢	"	鉄	
18	"	不明	陶 鉢	"	"	鉄		55	"	在地	土 碗	"	"	"	
19	"	瀬-美	"	丸碗	"	灰		56	"	瀬-美	陶 丸碗	"	"	灰	
20	"	在地	土	碗	"	"		57	"	"	"	磁	"	染	
21	"	瀬-美	陶 壺	"	"	"		58	"	不明	陶 不明	"	"	鉄	
22	"	"	"	磁 皿	"	染		59	"	瀬-美	磁 皿	"	大以降	"	
23	"	"	"	丸碗	"	染+呉須絵	4	60	"	在地	土 不明	"	明以降	"	
24	"	"	陶	不明	"	灰		61	1	瀬-美	陶 蓋	"	大以降	鉄	
25	1	在地	土	碗	"	"		2	"	"	"	不明	明以降	"	
2	"	"	"	"	"	"		62	"	"	"	鉢	"	灰	
3	"	"	"	"	"	"		63	"	不明	磁 徳利	"	"	"	
26	"	瀬-美	磁 丸碗	"	"	染		64	"	瀬-美	"	丸碗	"	染	
27	1	"	"	"	"	"		65	1	"	"	陶 不明	"	灰	
2	"	"	"	"	"	"		2	"	"	"	磁 丸碗	"	染	
3	"	"	"	"	大以降	"		66	"	"	陶 不明	"	"	施	
28	"	"	陶	不明	江	灰+染		67	1	在地	土 内耳鍋	"	鉄	"	
29	"	"	"	"	明以降	施		2	"	"	"	碗	不明	"	
30	"	"	"	丸碗	"	染		68	"	瀬-美	陶	"	明以降	鉄	
31	"	不明	鉄 角釘	"	江	"	50	69	1	"	"	磁 丸碗	"	染	
32	"	瀬-美	陶 不明	"	明以降	鉄		2	"	"	"	"	"	"	
33	"	"	磁 丸碗	"	"	染	9	70	"	不明	鉄 角釘	"	江	"	51
34	"	"	"	"	大以降	"		71	"	在地	土 碗	"	明以降	"	
35	"	"	陶 鉢	"	明以降	白	37	72	1	瀬-美	陶 不明	"	"	鉄	
36	"	"	磁 丸碗	"	"	染		2	"	"	"	鉄 釘	"	"	
37	"	"	陶 不明	"	"	灰		73	"	瀬-美	磁 不明	"	大以降	"	
38	"	"	磁 丸碗	"	"	染		74	"	"	陶 徳利	"	明以降	灰	
39	"	"	"	鉄 釘	"	"		75	"	"	"	不明	"	地	
40	1	瀬-美	磁 皿	"	大以降	"		76	"	"	磁 丸碗	"	"	染	?
2	"	不明	陶 不明	"	明以降	"		77	"	"	"	"	"	"	
3	"	"	貨幣	"	不明	破損		78	"	在地	土 碗	"	"	"	
41	"	瀬-美	陶 鉢	"	江	灰		79	"	瀬-美	磁 不明	"	大以降	染	

辺物番号	細番号	出土場所	産地	器種	時代	釉薬・その他	実測図番号	辺物番号	細番号	出土場所	産地	器種	時代	釉薬・その他	実測図番号
80		建	不明	陶 土管	明以降			121	建	不明	陶 瓦	明以降			
81		藤・美	不明	不明	鉄			122	在地	土	不明				
82				磁 丸瓶				123	藤・美	陶	江		灰+兵須絵		
83		不明	陶	不明				124					明以降	紺緑	
84		藤・美	磁	小皿		染	25	125		不明				鉄	
85			陶	不明		灰		126	藤・美		江		灰		
86					江			127			貨幣	江	寛永通寶		
87	1		磁	皿	明以降	染	43	128	藤・美	磁 杯	大以降		染+文字		8
	2			丸瓶				129		陶	不明		灰		
88				皿		上絵		130		磁 丸瓶	明以降	染			
89			陶	不明		灰		131							
90			磁					132	1						
91	1				大以降				2						
	2	不明	陶	土管	明以降			133		不明	陶	不明		施	
	3			小皿				134	藤・美	磁 丸瓶		染			
92		藤・美	磁	丸瓶		染		135			皿	大以降			
93	1							136		陶	不明	江	灰+染		
	2	在地	土	瓶				137	1		磁	明以降			
94		藤・美	磁	皿		上絵			2	不明	陶		施		
95				丸瓶		赤上絵			3	藤・美	磁				
96		不明	陶	不明		鉄		138			小皿		染		23
97	1	藤・美	磁	小皿		染	25	139		陶	不明	江	灰+兵須絵大廓期	65	
	2		陶	蓋	大以降	鉄		140				明以降	灰		
98				徳利	明以降	灰		141			徳利				
99			磁	丸瓶		染		142			急須				
100								143	1		鉢	江	貴		
101									2	不明	丸瓶	明以降			
102					大以降				3	在地	土	瓶			
103			鉄	釘				144	1	藤・美	陶 瓶	江	鉄		
104	1	藤・美	陶	不明	明以降	灰			2		鉄 釘	不明			
	2		磁	丸瓶		染		145		不明	陶 水差口	明以降	鉄		
105			陶	鉢	江	灰		146	1	在地	土	瓶			
106				不明	明以降	鉄			2	藤・美	陶 摺鉢		鉄		
107			磁	丸瓶	大以降		11	147	1		磁 丸瓶		染		
108						染			2			杯糸切	大以降		
109				小皿	明以降		23	148		不明	陶	不明	明以降	施	
110				丸瓶	大以降			149		藤・美	壺	大以降	鉄		
111					明以降	染		150	1		磁 瓶	明以降	染		14
112									2			不明	大以降		
113		不明	鉄	角釘	江		52	151	1	不明	ガラス		スリガラス		
114	1	藤・美	磁	丸瓶	明以降				2						
	2		陶	不明		灰		152		藤・美	陶 急須	明以降			
115	1		磁	丸瓶		染		153		不明	不明		鉄		
	2		陶	不明		鉄		154		藤・美	磁 丸瓶		染		
116			磁	壺	大以降		20	155			陶 筒形碗	江			31
117		不明	陶	摺鉢	明以降	鉄		156			磁 丸瓶	明以降	染		
118				不明				157			陶	不明	鉄		
119		藤・美	磁	丸瓶		染	7	158			鉢		灰		
120	1							159	1	不明	土管				
	2			鉢					2						

遺物番号	細番号	出土場所	産地	器種	時代	輪廓・その他	実測図番号	遺物番号	細番号	出土場所	産地	器種	時代	輪廓・その他	実測図番号
159	3	建	不明	陶土管	明以降	灰		194	2	建	瀬美	磁不明	大以降		
160	1	"	瀬美	磁丸腕	幕末	灰+鉄絵	32	195	"	不明	陶	"	明以降	鉄	
	2	"	"	小皿	明以降	"		196	"	"	土管	"	"	"	
	3	"	"	磁丸腕	"	染		197	"	瀬美	磁丸腕	"	"	染	
	4	"	"	不明	"	"		198	"	在地	土瓶	不明	"	"	
	5	"	不明	鉄	不明	"		199	"	瀬美	陶丸腕	幕末	灰+鉄絵	32	
161	"	瀬美	陶	"	明以降	"		200	1	不明	"	鉢	明以降	施	
162	"	"	"	"	"	鉄		2	"	瀬美	"	不明	観	サヒ大富期16c	64
163	"	"	"	磁丸腕	"	染		201	1	"	"	鉢	江	灰	
164	"	"	"	陶鉢	"	灰		2	"	"	磁碗	明以降	染	14	
165	"	"	"	磁丸腕	"	染		202	1	"	陶不明	江	灰+染		
166	"	不明	陶鉢	"	灰	"		2	"	"	磁	明以降	"		
167	"	瀬美	磁丸腕	大以降	"	"		203	1	"	"	丸腕	"	染	
168	"	不明	陶不明	"	"	施		2	"	"	"	杯	"	長+文字	5
169	"	瀬美	磁丸腕	"	"	"		204	"	"	"	小皿	江	染	28
170	"	"	"	"	明以降	染		205	"	在地	土内耳鍋	戦	"	57	
171	"	"	陶不明	"	"	鉄		206	"	瀬美	陶丸腕	江	灰+呉須絵	68	
172	"	"	"	"	"	"		207	"	"	磁	"	明以降	染	
173	"	"	"	磁丸腕	"	染		208	"	"	"	陶茶碗	"	"	16
174	"	"	陶不明	"	灰	"		209	"	"	陶鉢	江	灰		
175	"	不明	"	摺鉢	"	鉄		210	"	"	"	不明	"	"	
176	"	"	鉄帯金具	江	"	"	47	211	1	"	"	鍋	江後期	鉄	39
177	"	"	陶不明	明以降	"	"		2	"	"	磁丸腕	明以降	染		
178	"	瀬美	編	江後期	鉄	"	39	212	1	"	"	"	江	"	
179	"	"	不明	明以降	"	"		2	"	"	"	"	明以降	"	
180	"	"	磁	"	"	染		3	"	"	"	"	"	"	
181	"	不明	陶	"	"	"		213	1	"	"	"	"	染	
182	1	瀬並	磁丸腕	大以降	"	鉄		2	"	"	陶壺	大以降	"		
	2	"	"	皿口	"	"		214	"	在地	土瓶	明以降	"		
183	"	"	陶広東茶碗	江	灰+呉須絵	"	66	215	1	瀬美	陶不明	幕末	灰		
184	1	"	"	行平	明以降	鉄		2	"	"	"	丸腕	明以降	"	
	2	"	不明	ガラスビン	大以降	透明		3	"	"	"	不明	江	灰+染	
185	"	瀬美	陶徳利	明以降	外鉄+内灰	"		216	"	"	磁丸腕	明以降	染		
186	"	在地	土不明	"	"	"		217	1	"	"	"	"	"	
187	1	瀬美	磁丸腕	"	"	染		2	"	"	"	"	"	"	
	2	"	"	"	"	"		3	"	"	"	"	"	"	
	3	"	"	"	"	"		4	"	"	"	"	"	"	
	4	"	陶	"	幕末	灰+鉄絵	32	4	"	"	陶不明	"	灰		
	5	"	磁	"	明以降	染		5	"	"	"	"	"	鉄	
	5	"	"	"	"	"		218	1	不明	ガラスビン	大以降	透明		
188	"	"	陶急須	"	"	"		2	"	"	鉄釘	"	"	"	
189	"	"	"	不明	幕末	灰		219	1	不明	陶行平	明以降	"		
190	1	"	"	磁丸腕	大以降	"		2	"	瀬美	磁丸腕	"	染		
	2	"	"	"	明以降	染	13	3	"	"	"	"	"	"	
191	"	"	陶	"	幕末	灰	29	4	"	"	"	"	"	"	
192	"	"	"	"	明以降	鉄		5	"	"	陶不明	江	灰+染		
193	1	在地	土腕	"	"	"		220	"	不明	土管	明以降	"		
	2	"	"	"	"	"		221	1	瀬美	"	壺	"	鉄	
	3	"	瀬美	磁不明	"	染		2	"	"	"	不明	"	施	
	4	"	陶丸腕	幕末	灰+鉄絵	"	32	222	1	不明	"	"	大以降	"	
194	1	"	"	磁	大以降	"		2	"	瀬美	磁丸腕	明以降	染		

遺物番号	細番号	出土場所	産地	器種	時代	軸葉・その他	実測図番号	遺物番号	細番号	出土場所	産地	器種	時代	軸葉・その他	実測図番号
223	1	建	瀬-美	磁 丸碗	明以降	染		250	2	建	瀬-美	陶 鍋	江後期	鉄	26
	2	"	"	陶 徳利	"	灰			3	"	"	丸碗	"	灰	
224	"	"	"	磁 丸碗	"	染		251	1	"	"	磁 "	明以降	染	
225	1	"	"	"	"	"			2	"	"	"	大以降		
	2	"	"	陶 鉢	"	鉄			3	"	"	"	明以降	染	
226	"	"	"	不明	"	"			4	"	"	"	"	"	
227	1	"	"	磁 杯	"	長+文字	5	252	"	不明	陶 徳利	"	"	鉄	
	2	"	"	"	"	"	5	253	1	"	瀬-美	不明	"	灰	
228	1	"	不明	陶 丸碗	幕末	鉄			2	"	"	"	"	"	
	2	"	"	"	明以降	"		254	1	"	"	"	"	鉄	
	3	"	瀬-美	磁 皿	"	染			2	"	不明	"	"	"	
229	1	"	"	丸碗	"	"	10	255	1	在地	土 不明	"	"	"	
	2	"	"	"	"	"	10		2	"	"	瓶	"	"	
	3	"	"	"	"	"			3	"	不明	陶 不明	"	鉄	
230	"	"	"	陶 不明	"	灰			4	"	"	"	"	"	
231	1	"	"	"	"	鉄			5	"	瀬-美	"	"	"	
	2	"	不明	ガラス 平	大以降	透明		256	"	"	"	"	"	"	
232	"	"	"	陶 不明	明以降	施		257	1	"	"	蓋	"	"	
233	"	在地	土	碗	"	"			2	"	"	壺	"	"	
234	1	"	瀬-美	陶 "	"	鉄		258	1	"	"	丸碗	"	"	
	2	"	"	不明	"	"			2	"	"	香炉	"	黄	30
	3	"	不明	"	"	"		259	1	"	"	磁 丸碗	"	染	
	4	"	"	"	"	"			2	"	"	"	"	"	
235	1	"	瀬-美	行平	"	"			3	"	"	陶 不明	"	灰	
	2	"	"	磁 丸碗	"	染		260	"	"	"	磁 丸碗	大以降	上絵	
236	"	"	"	不明	"	上絵		261	"	"	"	陶 不明	明以降	灰+染	
237	1	"	"	皿	大以降	"		262	"	"	"	鉢	"	灰	
	2	"	"	丸碗	明以降	染		263	"	"	"	磁 碗	"	染	14
	3	"	"	陶 不明	"	"		264	"	"	"	陶 丸碗	"	鉄	
238	1	"	"	磁 皿	大以降	上絵		265	1	"	"	不明	"	"	
	2	"	"	陶 広東茶碗	江	灰+呉須絵	66		2	"	"	碗	"	"	
	3	"	"	磁 "	大以降	"			3	"	"	磁 丸碗	"	染+呉須絵	4
239	1	"	不明	陶 "	明以降	施		266	1	"	"	陶 徳利	大以降	長+鉄字	42
	2	"	瀬-美	"	"	鉄			2	"	不明	丸碗	明以降	施	
	3	"	"	磁 丸碗	"	染			3	"	瀬-美	徳利	"	外鉄+内灰	
240	"	"	"	陶 小皿	"	"			4	"	"	磁 "	"	染	
241	"	在地	土	内耳鍋	戦	"	58		5	"	"	丸碗	"	"	
242	"	瀬-美	磁	不明	明以降	"			6	"	"	陶 徳利	"	灰	
243	1	"	"	陶 丸碗	"	染			7	"	不明	不明	"	鉄	
	2	"	"	不明	"	灰			8	"	瀬-美	磁 丸碗	"	染	
244	"	"	"	磁 丸碗	"	染	7		9	"	在地	土 碗	"	"	
245	1	"	"	陶 浅鉢	江	灰+鉄	59		10	"	"	"	"	"	
	2	"	"	"	"	"	59		11	"	"	"	"	"	
	3	"	"	"	"	"	59		12	"	瀬-美	陶 取手	"	鉄	
246	"	"	"	不明	明以降	灰			13	"	"	鉄 釘	"	"	
247	1	"	"	磁 丸碗	"	染		267	"	瀬-美	陶 不明	"	明以降	灰	
	2	"	"	小皿	"	"		268	"	不明	鉄 角釘	"	江	49	
248	"	"	"	陶 不明	"	"		269	1	"	瀬-美	磁 丸碗	明以降	染	
249	"	"	"	磁石	"	"			2	"	"	"	"	染+呉須絵	6
250	1	"	瀬-美	陶 鍋	江後期	鉄	39		3	"	"	"	"	染+呉須絵	6

遺物番号	出土場所	産地	器種	時代	釉薬・その他	実測図番号	遺物番号	出土場所	産地	器種	時代	釉薬・その他	実測図番号
270	270	不明	陶 天目茶碗	明以降	天		285	7	270	不明	陶 不明	明以降	地
271	1	在地	土 瓶	"	"		286	1	"	"	"	"	鉄
	2	"	"	"	"			2	"	"	"	"	"
	3	"	"	"	"			3	"	"	"	"	"
	4	"	瀬-美 磁 丸碗	"	"			4	"	瀬-美 灯明皿	江後期	"	61
	5	"	"	"	染			5	"	"	碗	"	鉄
	6	"	陶 蓋	大以降	鉄		287	"	不明	鉄 不明	不明	"	
	7	"	磁 丸碗	"	"		288	"	瀬-美 陶 鉢	明以降	鉄	"	
272	1	"	"	"	明以降	染	289	"	不明	摺鉢	"	"	
	2	"	"	"	"		290	"	清水	不明	"	地	
	3	"	"	"	"		291	"	瀬-美	徳利	"	鉄	
273	1	"	陶 徳利	"	灰		292	"	不明	土 皿	江	"	56
	2	"	"	"	"		293	1	瀬-美 陶	不明	"	灰	
274	"	"	"	壺	"			2	"	"	鉢	"	黄
275	1	"	磁 丸碗	"	染	1		3	"	"	摺鉢	明以降	鉄
	2	"	"	"	"	7	294	1	"	"	徳利	"	灰
	3	"	"	"	"	1		2	"	"	不明	"	"
276	1	"	陶 不明	"	灰			3	"	"	"	"	
	2	在地	土 碗	"	"			4	"	"	"	江	
	3	瀬-美	磁 井	"	赤上絵			5	"	"	"	明以降	鉄
	4	"	陶 不明	"	灰		295	"	"	"	徳利	"	長
	5	"	"	"	"		296	1	"	"	鍋	江後期	26
	6	不明	ガラス 平	"	白色			2	不明	不明	明以降	鉄	
	7	瀬-美	陶 不明	"	灰		297	1	瀬-美	磁 丸碗	"	染	
277	"	"	"	"	江	鉄		2	"	陶	江	灰+呉須絵	68
278	"	"	"	"	明以降	"	298	"	"	磁 小皿底	明以降	染	
279	"	不明	"	摺鉢	"	鉄	299	1	"	"	丸碗	"	2
280	1	瀬-美	磁 丸碗	"	染	"		2	"	"	"	"	
	2	"	陶 不明	"	灰	"		3	"	"	"	"	
	3	"	"	"	霧 未	"		4	"	"	"	"	
	4	"	磁 丸碗	明以降	"	"		5	"	陶	"	灰	
281	1	"	"	"	染	"		6	"	磁	"	染	
	2	"	"	"	"	"		7	"	陶 不明	"	地	
	3	"	"	"	"	"	300	"	"	"	"	鉄	
	4	"	陶 不明	"	灰	"	301	1	"	"	"	灰	
282	"	"	"	"	大以降	"		2	"	砥石	"	"	
283	1	在地	土	明以降	"	"		3	"	"	"	"	
	2	瀬-美	陶	"	江	灰+呉須絵	302	1	瀬-美	陶 鍋	江後期	鉄	39
	3	"	"	"	灰	"		2	"	"	"	"	39
	4	"	"	丸碗	明以降	"		3	"	磁 丸碗	明以降	染	
	5	不明	"	"	鉄	"		4	"	陶 不明	江	灰	
284	1	瀬-美	磁 丸碗	"	染+呉須絵	3	303	"	"	磁 丸碗	明以降	染	
	2	"	"	碗	"	染	14	304	1	"	陶 碗	"	鉄
	3	"	"	"	"	"	14	2	在地	土 不明	"	"	
285	1	"	"	小皿	"	"	22	305	1	瀬-美	磁 丸碗	"	染
	2	"	"	丸碗	"	"		2	"	"	"	染+呉須絵	4
	3	"	"	徳利	"	染		3	"	"	"	染	
	4	"	"	丸碗	"	"		4	"	"	"	"	
	5	"	"	"	"	"		5	"	"	小皿	"	22
	6	"	"	"	"	"		6	"	"	丸碗	"	"

遺物番号	編番号	出土場所	産地	器種	時代	釉薬・その他	実測図番号	遺物番号	編番号	出土場所	産地	器種	時代	釉薬・その他	実測図番号
305	7	建	瀬美	磁 丸碗	明以降	染+呉須絵	4	321	建		白骨 不明	不 明			
	8	"	"	"	"	染+呉須絵	4	322	"	瀬美	磁 丸碗	明以降	染		
	9	"	"	"	"	染		323	"	"	陶 取手	"	灰		
	10	"	"	"	"	"		324	"	"	" 鉢	"	白	37	
	11	"	"	"	"	"		325	1	"	" 磁 丸碗	"	染		
	12	"	"	"	"	染+呉須絵	4		2	"	"	"	"		
	13	"	"	"	"	"			3	"	"	"	"		
	14	"	"	陶	江	灰+呉須絵	68		4	"	" 陶 不明	"	紺緑		
	15	"	"	"	明以降	灰		326	1	"	" 丸碗	"	灰+上絵	24	
	16	"	不明	" 丸碗	大以降	施			2	"	不明	" 不明	"	施	
	17	"	瀬美	" 徳利	明以降	灰		327	"	"	"	"	"	鉄	
	18	"	"	" 不明	"	"		328	"	"	"	" 鉢	"	"	
	19	"	"	" 蓋	大以降	鉄		329	"	瀬美	" 香炉	"	黄	30	
	20	"	不明	" 不明	明以降	施		330	1	"	"	" 蓋	"	鉄	
	21	"	在地	土	"	"			2	"	"	"	大以降	"	
	22	"	"	" 瓶	"	"		331	"	"	" 磁 小皿	明以降	染	35	
306	"	瀬美	陶 丸碗	江	灰+呉須絵	68	332	"	"	"	" 貨幣	江	寛永通寶		
307	"	"	"	灯明皿	江後期	灰	27	333	1	"	在地	土 瓶	明以降		
308	"	"	"	打製石斧	"	"			2	"	"	"	"		
309	"	瀬美	磁 小皿	明以降	染	"		3	"	瀬美	磁 丸碗	"	染		
310	"	"	陶 不明	"	灰	"		334	1	"	" 陶 摺鉢	"	鉄		
311	1	"	"	磁 丸碗	"	染			2	"	"	"	"		
	2	"	"	"	大以降	"		335	"	"	不明	"	"		
	3	"	"	陶 急須	明以降	"		336	1	"	瀬美	磁 皿	大以降	"	
312	"	"	"	打製石斧	"	コモノ石	45		2	"	" 丸碗	明以降	染		
313	"	瀬美	磁 皿	大以降	"	"		3	"	不明	陶 不明	"	施		
314	1	"	"	" 丸碗	明以降	染+呉須絵	4		4	"	瀬美	" 徳利	"	灰+外鉄絵	
	2	"	"	"	"	染+呉須絵	4	337	"	"	" 磁 丸碗	"	染	21	
	3	"	"	"	"	染+呉須絵	4	338	"	"	" 陶 不明	江	灰		
315	"	"	"	"	"	染	7	339	"	"	" 磁 丸碗	明以降	染	15	
316	"	"	"	"	"	"	19	340	"	"	"	"	"	15	
317	1	"	"	"	"	"		341	"	"	"	"	"	13	
	2	"	"	"	"	"		342	1	"	" 陶 鍋	江後期	鉄	26	
318	"	"	"	"	"	染+呉須絵	4		2	"	" 摺鉢	江	"		
319	1	"	"	" 不明	大以降	"		343	"	"	" 磁 小皿	明以降	染		
	2	"	"	"	"	"		344	"	"	" 陶 蓋	"	"		
	3	"	"	陶	明以降	灰		345	"	"	" 徳利	"	灰		
320	1	"	"	" 浅鉢	江	鉄+灰	59	346	1	"	" 磁 丸碗	"	"		
	2	"	"	"	"	"	59		2	"	" 不明	"	"		
	3	"	"	"	"	"	59		3	"	不明	陶	"	施	
	4	"	"	"	"	"	59		4	"	"	" 行平	"	"	
	5	"	"	"	"	"	59		5	"	在地	土 不明	"	"	
	6	"	"	"	"	"	59	347	"	"	不明	陶 行平	"	鉄	
	7	"	"	"	"	"	59	348	"	瀬美	" 磁 丸碗	"	染		
	8	"	"	"	"	"	59	349	"	"	" 陶 小皿	鞍	灰 大塚期16c	55	
	9	"	"	"	"	"	59	350	"	"	" 不明	明以降	灰		
	10	"	"	"	"	"	59	351	1	"	" 磁 杯	"	長+文字	5	
	11	"	"	磁 丸碗	明以降	染			2	"	" 丸碗	"	染		
	12	"	"	"	"	"			3	"	"	"	"		
	13	"	"	"	"	"			4	"	" 陶 不明	"	灰		

遺物番号	細番号	出土場所	産地	器種	時代	釉薬・その他	実測図番号	遺物番号	細番号	出土場所	産地	器種	時代	釉薬・その他	実測図番号
351	5	建	瀬美	陶 丸瓶	明以降	灰		370	12	管	在地	土 不明	明以降		
352	"	"	在地	土 瓶	"	"		371	"	瀬美	陶 德利	"	"	黄	34
353	"	"	瀬美	磁 鉢	"	染+上薬割り取り	33	372	1	"	高遠	" 鉢	"	長	41
354	"	"	"	" 丸瓶	"	染		2	"	瀬美	磁 丸瓶	大以降	染	12	
355	1	"	"	陶 小皿	戦	灰 大塚期16c	55	373	"	"	"	"	明以降	"	
	2	"	"	磁 不明	明以降	染		374	"	"	"	取手	"	鉄	
356	"	"	"	陶 摺鉢	"	鉄		375	1	"	"	陶 德利	"	黄	34
357	"	"	"	磁 丸瓶	"	染		2	"	"	"	"	"	"	34
358	"	"	"	貨幣	江	寛永通寶		376	1	"	"	磁 カレー皿	昭以降	44	
359	1	"	瀬美	陶 碗	明以降	鉄		2	"	"	"	"	"	44	
	2	"	"	" 不明	"	灰		1000	1	建	"	丸瓶	江	染	
	3	"	"	"	"	江	灰+染	2	"	"	"	"	明以降	"	
	4	"	"	"	"	"		1001	"	"	"	不明	江	灰	
360	"	"	在地	土 瓶	明以降	"		1002	"	"	不明	鉄 角釘	"	"	53
361	"	"	瀬美	磁 丸瓶	"	染		1003	"	瀬美	陶 不明	"	"	灰	
362	1	"	"	"	"	"		1004	"	"	"	"	明以降	"	
	2	"	"	"	"	"		1005	1	"	"	" 丸瓶	明初期	灰+上絵	24
	3	"	"	"	"	"		2	"	"	"	磁	明以降	染	
363	"	"	"	陶 摺鉢	江	鉄	63	1006	1	"	"	陶	明初期	灰+上絵	24
364	1	管	"	磁 丸瓶	明以降	染	15	2	"	"	"	"	"	"	24
	2	"	"	" 德利	"	長	18	3	"	"	"	不明	明以降	灰	
	3	"	不明	陶	"	鉄		1007	"	"	"	磁 丸瓶	"	染	
	4	"	瀬美	" 鉢	江	"		1008	1	"	"	"	"	"	2
	5	"	在地	土 不明	明以降	"		2	"	"	"	"	"	"	
	6	"	瀬美	磁 丸瓶	"	染		3	"	"	"	陶 不明	"	鉄	
	7	"	"	"	"	"		1009	1	"	不明	土管	"	"	
	8	"	"	"	"	"		2	"	瀬美	" 丸瓶	明初期	灰+上絵	24	
	9	"	"	"	"	"		3	"	"	"	"	明以降	染	
	10	"	"	陶	"	灰+赤上絵		4	"	"	"	不明	"	鉄	
365	1	"	"	磁	"	染		5	"	"	"	磁 丸瓶	"	染	
	2	"	"	" 不明	"	赤上絵		6	"	"	不明	陶	"	"	
366	"	"	"	白骨	不明	"		7	"	在地	土 不明	"	"	"	
367	1	"	瀬美	磁 丸瓶	明以降	染		8	"	"	瀬美	陶	"	灰	
	2	"	"	"	"	"		1010	"	"	"	磁 丸瓶	"	染	17
	3	"	"	陶	明初期	灰+上絵	24	1011	"	"	"	陶 不明	"	"	
368	1	"	"	磁 鉢	"	赤上絵	38	1012	"	"	"	"	"	灰	
	2	"	不明	陶 筒形陶器	"	鉄	36	1013	"	"	不明	" 鉢	"	鉄	
369	1	"	"	" 德利	大以降	長+鉄字	42	1014	"	"	瀬美	"	"	灰	
	2	"	高遠	" 瓶	明以降	長	40	1015	"	"	"	"	江	黄	
370	1	"	瀬美	磁 丸瓶	"	染		1016	"	"	不明	鉄 不明	"	"	46
	2	"	"	陶 鉢	"	鉄+灰		1017	"	"	"	磁 皿	明以降	染+上薬割り取り	
	3	"	"	" 摺鉢	江	鉄		1018	"	"	瀬美	陶 不明	江	灰	
	4	"	"	" 鉢	"	"		1019	"	"	"	磁 丸瓶	明以降	染	
	5	"	"	" 不明	"	灰		1020	"	"	不明	鉄 角釘	江	"	54
	6	"	"	磁 丸瓶	明以降	染		1021	"	"	瀬美	磁 不明	"	染	
	7	"	不明	" 罎子	大以降	"		1022	1	管	"	" 德利	明以降	黄	34
	8	"	瀬美	陶 德利	明以降	染		2	"	"	"	"	"	"	34
	9	"	"	" 不明	江	灰		3	"	"	"	"	"	"	34
	10	"	在地	土	"	明以降		4	"	"	"	"	"	"	34
	11	"	"	"	"	"		1023	"	"	"	陶 摺鉢	"	鉄	

遺物番号	細番号	出土場所	産地	器種	時代	軸葉・その他	実測図番号	遺物番号	細番号	出土場所	産地	器種	時代	軸葉・その他	実測図番号		
																遺物番号	細番号
土 壇 中	1	建	瀬・美	陶	不明	江	銅線勇右衛門印	60	工 事 中	1	建	瀬・美	磁	丸碗	明以降	染	
	2	"	"	"	摺鉢	"	鉄	62		2	"	"	"	"	"	"	
	3	"	"	"	磁	丸碗	明以降	染		3	"	"	"	"	"	"	
	4	"	不明	陶	鉢	"	"	"		4	"	"	"	"	"	"	
	5	"	瀬・美	磁	丸碗	"	染	"		5	"	"	"	鉢	"	"	
	6	"	"	"	"	"	"	"		6	"	"	"	"	"	"	
	7	"	"	"	"	"	"	"		7	"	"	陶	不明	"	鉄	
	8	"	在地	土	不明	"	"	"		8	"	不明	"	"	"	"	
	9	"	瀬・美	陶	碗	"	鉄	"		9	"	"	土管	"	"	"	
	10	"	不明	鉄	止金具	江	"	48		10	"	瀬・美	"	皿	江	灰+典須絵	67
	11	"	瀬・美	陶	"	明以降	施	"									
	12	"	"	磁	"	"	染	"									

※ 高遠城跡出土遺物種類別集計

陶器	337 片	ガラス	6 片
磁器	295 片	石製品	5 個
土器	53 片	骨	2 片
鉄器	19 個		
貨幣	5 枚	合計	722 個

※ 遺物番号については、調査中の出土順に付してある。

※ 実測図番号については、実測図（第9～13図）の順に付してあり、図版右下の数字と照合する。

※レイアウトの都合上、表内に略語を使用した。以下のとおりである。

- | | | | |
|-------|--------------------------------|-----|----------------------------|
| ○遺物番号 | 土壇中—第1号土壇中から出土
工事中—建築工事中に出土 | ○時代 | 戦—戦国時代
江—江戸時代
明—明治時代 |
| ○出土場所 | 建—建築部分から出土
管—管路部分から出土 | | 大—大正時代
昭—昭和 |
| ○産地 | 瀬・美—瀬戸・美濃系 | ○軸葉 | 染—染め付け
黄—黄瀬戸軸 |
| ○器種 | 陶—陶器
磁—磁器
土—土器
鉄—鉄器 | | 長—長石軸
天—天目軸
上絵—上絵付け |

ま と め

本調査は、史跡高遠城跡の「二ノ丸」内に設けられる汲み取り式水洗便所敷地部分、並びに既設貯留槽への排水管路埋設部分の埋蔵文化財緊急発掘調査である。

本調査は、その年度内に報告する義務があり、調査範囲も狭く広範に確認できないため、出土した遺構・遺物は後日十分に検討を行うこととして、今回は実測図や図版を中心に報告書とし、また、主として調査遺物の整理中知り得た問題点の2～3について述べ、まとめとしたい。

1. 今回設置される便所の位置は、二ノ丸の内でも西北の隅の部分である。この場所は、現在高遠町などに所蔵されている高遠城の絵図で見ると限りでは、重要建造物などが見当たらないところから、便所建築場所に選定した。

2. 今回の建築部分における調査は、建物の性格からその範囲も50㎡と狭い面積である。調査は出来る限り詳細に記録・保存をする方針とし、全面ドットマップという方法をとった。

3. 遺物はドットマップ図(第8図)に示されているように、地表下5cm程の層から検出されたが、もっとも多く検出された層は、地表下15～30cm内外であり、それ以下になると遺物の出土量は減少し、ソフトローム面ではまったく発見されなくなった。これら遺物の出土状態を見ると、浅い面からは古い遺物と新しい遺物が混在して検出されている。また、下層にも新しい遺物と古い遺物が混在しているところがあり、現時点では、一つにはゴミ捨場的な所であったのか、または、後世の耕作などにより更にかく乱されたことによるものなのか、などいろいろ考えられる。

4. 今回の発掘調査では、縄文や弥生時代の遺物は発見されなかったが、城跡の周辺からは表採ではあるが以前より発見されているところから、今後行われる調査では注意していく必要があると考える。出土した遺物の主なものをとりあげてみると、無文土器の小破片が発見されたが、あまりにも少量のため説明するまでに至らなかった。時期別には大窩期15～16世紀代の灰釉の皿が一番古い時期のものであった。次に内耳鍋の破片で、戦国～江戸初期に位置付けられるものと考えられる。江戸時代では、登窯で焼かれた陶器や磁器などが出土し、金属類では、寛永通寶4枚や角釘、馬具などが検出されており、その他に出土している遺物は、明治以降の陶・磁器が大部分であり、総数は700点余りに達している。

5. 管路の調査では、配石跡や集石跡が4ヶ所発見されたが、調査の範囲が極めて狭かったためそれらの遺構の性質を位置付けるまでに至らなかった。また、出土した遺物も江戸時代～明治以降まで混在して発見されたことから、この周辺にも、江戸時代以降の何らかの遺構が存在するのではないかとと思われるところである。

以上、調査した中で得た問題点を述べ、まとめとしたい。

(友野 良一)

あ と が き

史跡高遠城跡二ノ丸便所建築事業に対する緊急発掘調査の、経過並びに成果につきましては本文中に記載したとおりであります。

この報告書を発刊するにあたり、調査員の友野先生には多忙なところを遠く宮田村からご足労願ひ、陣頭指揮をとっていただきました。また、休憩時間を利用して作業員の皆さんと進んで学習会を持っていただき、深い研究の中からにじみ出る一言ひと言から歴史調査の大切さ、埋蔵文化財の貴重さを熱心に教えていただきました。発掘調査から報告書執筆まで、期間の短かいところをご尽力いただきまして、感謝申し上げる次第であります。

調査期間中厳寒のなか、毎朝シートをはずすと霜柱が敷き詰められ“ガッカリ”の毎日、数々のご苦労をおかけしたにもかかわらず、積極的に作業に参加し、興味をもって取り組んでいただきました(有)東部建設、発掘作業員の皆さんに厚く感謝申し上げます。

高遠町教育委員会

教育次長 伊藤 敏 明

《発掘調査に参加された方々（順不同・敬称略）》

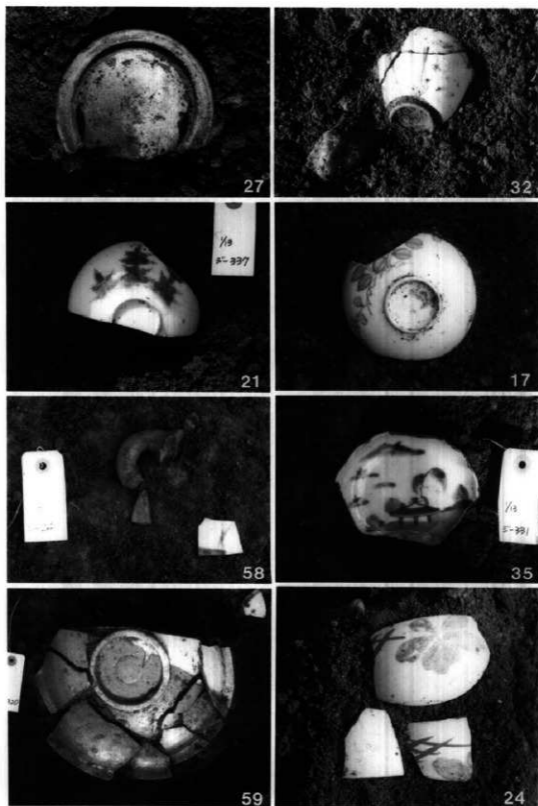
広瀬 源司・山崎 大行・福沢 聖・北原 利夫・新本ふじ子・岩崎 善信
飯島 知明・植木 勇・吉越 吉宗・山谷 高江・池上ますみ・宮下美咲男
伊藤 清・赤羽 潔・牛山 博・北村 勝彦・名和 長利・平沢かほる
荒井 美和・小松 博康・(有)東部建設

《参 考 文 献》

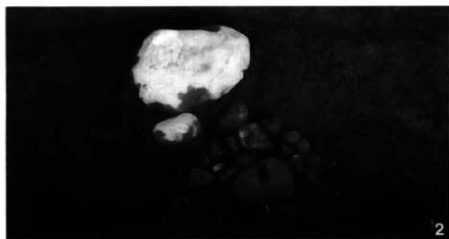
高遠町誌刊行会	1979	「高遠町誌（下巻 自然・現代・民俗編）」
高遠町誌刊行会	1983	「高遠町誌（上巻 歴史編）」
瀬戸市歴史民俗資料館	1984	「研究紀要Ⅲ」
“	1985	「研究紀要Ⅳ」
“	1986	「研究紀要Ⅴ」
“	1987	「研究紀要Ⅵ」
高遠町教育委員会	1988	「高遠城跡二ノ丸発掘調査報告書」
“	1988	「史跡高遠城跡 保存管理計画策定報告書」
瀬戸市歴史民俗資料館	1988	「研究紀要Ⅶ」
高遠町教育委員会	1990	「原勝間遺跡」



1. 建築部分調査前の状況 2. 建築部分調査中の状況
3. 管路部分調査中の状況



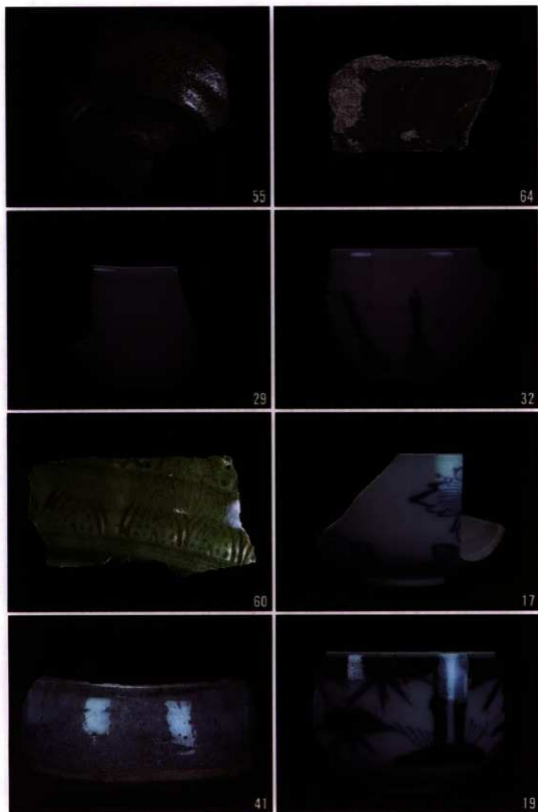
高遠城跡遺物出土状況 ☆番号は実測図番号



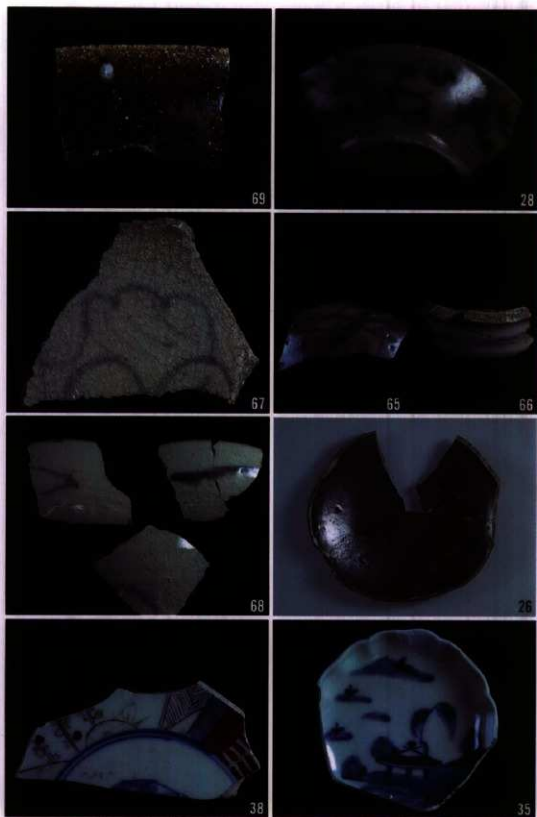
1. 建築部分調査状況 2. 管路部分調査状況 (第5号配石)
3. 発掘調査状況打ち合わせ (県文化課児玉指導主事と)



1. 管路部分調査状況 (第 2 号集石平面)
2. 管路部分取り上げ調査状況 (第 2 号集石取り上げ石)
3. " (第 2 号集石断面)



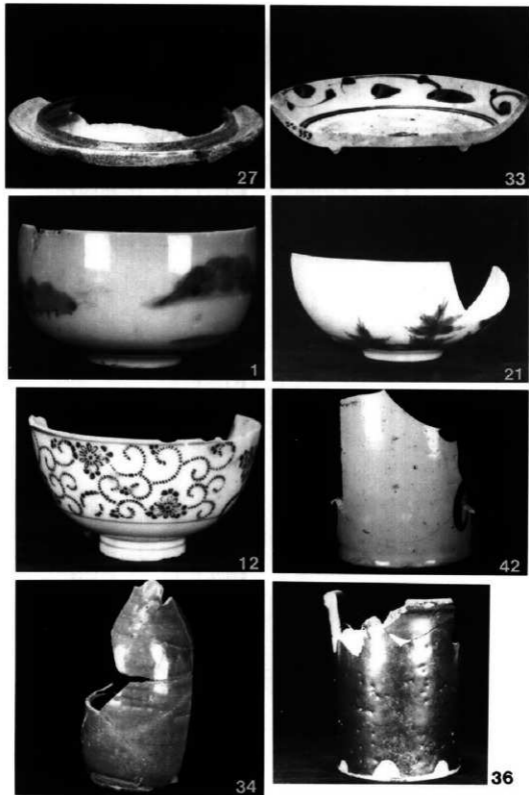
高遠城跡出土遺物（1） ※番号は実測図番号



高城城跡出土遺物(2) ※番号は実測図番号



高遠城跡出土遺物 (3) ※番号は実測図番号



高遠城跡出土遺物(4) ※番号は実測図番号

史跡高遠城跡二ノ丸便所建築事業

史跡高遠城跡二ノ丸II

埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

平成4年3月

発行 高遠町教育委員会

印刷 興オノウエ印刷

長野県諏訪市中洲586

